

まちかどニュース

身近なイベントや、まちかどの話題を皆さんから募集しています。

晴れやかな雰囲気包まれて——「清瀬市成人記念式典」を開催

1月8日、清瀬けやきホールで、「平成29年清瀬市成人記念式典」が開催されました。

清瀬市では、平成8年4月2日～平成9年4月1日生まれの724人が、今年成人を迎えました。当日は、華々しい衣装に身を包んだ新成人たちが再会を懐かしみ、会場は晴れやかで賑わいのある雰囲気包まれました。

清瀬の未来を担う新成人の皆さん、誠におめでとうございます。



華々しい衣装に身を包んだ新成人の皆さん

ニンニクスタンプ公開抽選会を行いました

1月12日、清瀬商工会館(松山二丁目)で「きよせニンニクスタンプ第3回公開抽選会」が行われました。

応募総数11,692件のなかから、特賞＝5万円・1本、1等＝3万円・3本、2等＝1万円・150本、3等＝5千円・212本が公正に選ばれました。

たくさんのご応募、ありがとうございました。

問合せ 清瀬商工会 ☎491・6648



抽選をする参加者の皆さん

増築します 清瀬市立梅園第3学童クラブ

市では、清瀬市立梅園第1・第2学童クラブの待機児童を解消するため、梅園第3学童クラブを増築し、平成29年4月1日(土)に開所します。梅園第1～第3学童クラブの定員は、第1・第2が各35人、第3が30人です。

問合せ 子育て支援課学童クラブ係 ☎497・2089



増築される第3学童クラブ

清瀬 こども俳句

小・中学生の俳句を紹介するコーナー。ぜひご応募ください。
選評 石田波郷俳句大会実行委員会

●お年玉親孝行までためておこう

〔評〕小学生ではなく一年生といえやばり中学生のものだな、ということを感じさせてくれる作品。新年の季語「お年玉」を使って一句、と思ったとき、たぶん小学生だと「もらってうれしいな」とか「ありがと」とか、そういった表現が中心になるが、このちよつと背伸びした感じのまとめ方がいかにも中学生らしくて、うれしくなる。

●星空に花火重なり万華鏡

〔評〕この句の季語は、もちろん「花火」。夏の代表的な季語のひとつで、よくモチーフになる。そのなかで小学生のころに「空のお花畑のようだ」と言っていた花火の美しさの比喩表現が、中学生になるとこの句のようにぐっとレベルアップする。誰もが知っている「万華鏡」を使ったのが成功のもと。

●雷よ僕の成績落とすなよ

〔評〕雷は、積乱雲のなかで生じる気象現象、放電現象だが、昔の人はその光と音から神さまのなごること、神鳴(かみなり)と捉えたのだらう。夏の季語として、他に雷(らい)、いかづち、雷鳴、遠雷、落雷、はたした神、日雷(ひがみなり)など幅広く使われる。この句は、落雷と落ちるの連想から俳句的ユーモアをたたえた面白い表現となった。

清中三年 八谷優太

三中三年 町田ゆり菜

※今回の俳句は「第8回石田波郷俳句大会ジュニアの部」から。学年は大会時。
【お詫言と訂正】市報1月15日号の小布施知優さんの句に誤りがありました。正しくは「汗光るティンパニを打つ我が腕に」です。読者の皆様及び関係者各位にご迷惑をおかけいたしました。訂正して、お詫言申し上げます。

3本の木とともに

郷土博物館で『清瀬結核の歴史展』が開催されました。外科手術、薬もなく不治の病の時代、結核との向かい合いは「大気・安静・栄養」療法でした。

不思議なことに、この療法の3つの言葉から清瀬が浮かび上がってきた。安静と栄養の順序を変えれば、「たいき」の「き」「えいよう」の「よ」、「あんせい」の「せ」、それぞれ3番目の文字を結ぶと「き・よ・せ」が現れます。それにしても不思議な浮かび上がりです。結核と清瀬との深い縁、結です。

もうひとつの不思議です。国立病院機構松江医療センター矢野修一院長によると、古代ギリシアの医者であるヒポクラテスは結核に対し、

「透明な肌、長い首、大きな目とそこに宿る光、午後になると発熱し頬が紅潮」と妙齢の美しい女性を髣髴とさせる表現をしたそうです。

一方、東京スカイツリーをデザイン監修された清瀬名誉市民の澄川喜一氏も、「スカイツリーは眺める角度によって表情を変え、レース編みをまとった貴婦人のような美しい立ち姿です」と話されています。「美しい女性」で結核とスカイツリー、清瀬が繋がります。

病に耐えて、光を灯す、まさに東京スカイツリーも建設中、東日本大震災に襲われても大林組の技術によって倒れず(大林組技術研究所は清瀬にある)、希望の光を灯してきました。

話は飛びますが、戦後の連合国による東京裁判で日本側の弁論を展開したのは清瀬一郎弁護士です。何か、「清瀬」は人類的な使命を担っているのかと思つてしまいます。

清瀬市長
渋谷金太郎

農業体験農園の利用者を募集

新鮮で安全・安心な野菜を作ませんか！

農業体験農園は、市内の農家が開設し経営・管理している農園です。園主の指導を受けながら、種まきから苗の植え付け、肥培管理、収穫まで体験することができます。また、作業の講習は週末を中心に行われますので、働いている方や初心者の方でも安心して野菜作りができます。

募集する小寺農園は、清瀬で農業を営んで14代・400年のキャリアがあります。野菜作りに興味がある方は、ぜひご参加ください。
農園の所在地 下清戸五丁目906 小寺農園
利用料など 年間41,000円(種・苗・肥料・講習代など必要な代金と収穫した野菜代含む)

区画数など 70区画(1区画3㎡×10㎡=30平方㎡)
利用期間 3月中旬から平成30年1月末(2月は畑の養生期間)

申込み方法 第1回締め切り＝3月3日までに、往復はがきに住所・氏名・年齢・電話番号・メールアドレス(お持ちの方)を記入し、〒204-0011下清戸5丁目906 小寺方「体験農園の仲間」宛てに郵送。(最終締め切りは3月31日)

問合せ 小寺農園 ☎493・6119、☎090・1659・3316、ホームページ <http://berudekiyose.sakura.ne.jp>



市報などの音声版を作成しています

視覚障害者の方や視力が衰えて市報などを読むのがつらいという方へ、それらを音読したCDを作成し、無料でお届けしています。また、市ホームページからもデジ版・MP3版をダウンロードできます。清瀬市の多彩な情報を入手できる音声版を、ぜひご利用ください。

なおCDの再生には、パソコンをえられるか、デジ版再生機またはMP3に対応した再生機が、必要になります。
※デジ版再生機の購入には、視覚障害の等級によって給付が受けられる場合があります。(給付については障害福祉課障害福祉係 ☎497・2073へ)

問合せ 秘書広報課広報聴係 ☎497・1808



投稿募集中 あなたも市報に参加しませんか

「まちかどニュース」「がんばりすと」への投稿を募集しています。
応募方法・問合せ 1日号・15日号ともに掲載希望号の1か月前(いずれも必着)までに、写真(データが望ましい)に説明(いずれも150字程度)を添えて、住所・氏名・電話番号を記入し、直接または郵送、メールで秘書広報課広報聴係 ☎497・1808へ